

愛情込めてそば作り

庄内新そばまつり

庄内産そばをPRしようと思った庄内新そばまつりが12月12日、関之尾緑の村で開かれました。田舎そばやかけそばが販売された会場には、おいしい新そばを食べようと多くの家族連れが来場。また、同会場ではそば打ち体験も行われ、参加者らは講師の説明を聞きながらそば粉をこねたり、めん棒を使ったりと初めてのそば打ちに悪戦苦闘していました。上西和夫さん（三股町）は「教えてもらった事を参考に年越しそばを作って家族に食べさせたい」と話していました。



理解を深めるきつかけに

ふれあいのつどいげんきげんき芸術祭

芸術祭が12月19日、ウエルネス交流プラザ開かれました。障がいへの理解を深めてもらおうと本市と三股町の福祉作業所など16団体が参加。絵画やちぎり絵、セーターなどの編み物などが展示されたほか、障がいがある人からのリクエストが多かったのし袋作りや書道体験コーナーも設置され、多くの来場者でにぎわいました。福元圭子さん（志布志市）は「こうした催しで見たり触れたりして福祉に対する関心が高まるといいですね」と話していました。



初春の日を浴び走り初め

新春初詣健康マラソン大会

初春の走り初めをする新春初詣健康マラソン大会が1月2日、山之口町安楽寺を発着とする5.5キロのコースで開催されました。県外から帰省した人を含めた2歳から81歳までの約370人が参加。選手らは、コース途中の的野正八幡宮（ましのしょうはちまんどうぐう）で振る舞われたぜんざいをほお張り今年1年の健康を祈願した後、熊野神社までのタイムを競い合いました。下西勇馬くん（山之口中3年）は「新年から楽しく走れ、受験勉強のいい息抜きになりました」と晴れ晴れとした表情を浮かべていました。



場内を飛び交う威勢のいい掛け声

平成23年取引業務初め式（初競り）

市民の台所、公設地方卸売市場で1月5日、取引業務初め式が行われました。市場取引の活性化と1年間の無事故を祈願する三本締めの後、競り棒を持った長峯市長の「はい、なんぼっ」の掛け声で競りがスタート。威勢のいい掛け声が場内を飛び交う中、仲買人らは鮮魚や地元産の野菜などを次々に競り落としていました。今年の景気を占う初競りでは長引く景気低迷や口蹄疫被害などの逆風を吹き飛ばせとばかりに、4キロの鯛（たいてい）に1万2,000円、バラ20本に2万円のご祝儀価格が付きました。





力を込めてもぐら打ち!

平田地区モグラウツ

農作物に害をもたらすモグラを退治し、五穀豊穡を祈願する正月の伝統行事「モグラウツ」が1月8日、乙房町平田地区で行われました。地元の小学生ら約30人が保護者と一緒に240戸ほどを訪問。「もぐら打つが来たど」とはやし唄を歌いながら、縄の先端に結び付けたわら束で庭先や畑をたたいてモグラを追い払い、そのお礼に家人から菓子やもちをもらっていました。満永陽子さん(乙房町)は「子どもの元気な掛け声にモグラも驚いて逃げて行くでしょうね」と笑顔で話していました。



厄を払い一年の無病息災を祈願

オネッコカッコ(鬼火焚き)

正月の風物詩オネッコカッコが1月8日、市内の各所で行われました。上長飯町の竹町地区では地域おこしにつなげようと60年ぶりに復活。数え年で7歳の子どもらが竹で組んだやぐらに火を放つと瞬間に大きな火柱となり、盆地の夜空を焦がしました。竹のはじける音が響く中、訪れた人たちは燃え盛る炎を見上げたり、残り火で焼いたもちを食べたりして今年1年の無病息災を祈っていました。還暦を迎えた下蘭浩二さん(上長飯町)は「厄も払えてよかったです」と喜んでいました。



地域を守る熱い炎は消えない

都城市消防出初め式

新春恒例の消防出初め式が1月9日、沖水川市民緑地で開催されました。消防旗に続き団員らおよそ1,200人が号令に合わせ、きびきびとした動きで入場。市長や消防局長らによる服装や規律動作などの点検を受けた後、色とりどりの一斉放水を披露しました。長年、団員である夫を支えた内助の功で県知事表彰を受けた花森順子さん(山田町)は「いつ呼び出されるのか分からないので大変でしたが、報われました。もっと若い人たちにも入団してほしいです」と話していました。



無口な福の神にもう一声

カセダウイ(かせだうり)

五穀豊穡や無病息災を願うカセダウイが1月14日、市内各地で行われました。地元の壮年会員らが顔を黒く塗り、みの笠などを身に付け福の神にふんし、地区内を訪問。福の神は話すことが出来ないため、身ぶり手ぶりで値段を交渉。出された商品を値切ろうとする住民との間でユーモアあふれるやりとりが交わされ、集まった人たちの笑いを誘っていました。長谷地区の壮年会長の益留文男さんは「訪問する家は、この日を楽しみに待っています。長く続けたいですね」と話していました。





西

都城駅前周辺のにぎわいを取り戻そうと活動している西駅大通り(ゆずり葉大通り)会。その会長が加治屋孝一さん(松元町・69歳)です。

住民の意見を盛り込んだ西都城駅前広場と蔵原通線シンボルロードの改良工事が昨年11月3日に終了。その記念イベントが行われたのを皮切りに、西駅前を元気づけようとクリスマスイルミネーション

ンなどの活動を始めています。

かつては市営市場やお土産屋が立ち並び、西の玄関口としてにぎわっていた通りも時代の流れとともに次第に衰退。

人通りが少なくなつたまちを見て従来の商店街の活性化策だけでは生き残ることができないと感じています。そうしたい思いから加治屋さんを中心とした同会では、人が気持ちよく歩き、さまざま

まなイベントができるように、歩道の幅を広くすることや街路樹の

植栽を県などに提案。また、住民と行政との共有の場として活用できるように歩道から1歩引いて新規の建物の建設をするなど、さまざまな意見を提案し、改良工事に盛り込みました。

街路樹にちなんでつけられた「ゆずり葉大通り」の愛称。ゆずり葉大通りという愛称には、それ以

外にも次世代にいいまちをゆずつていくという意味も込められています。

現在は、人が集い、にぎわいのあまるまちにするために2月27日に駅のコルコースとJR広場で開催予定のアームレスリング大会や定期市などの準備に忙しい加治屋さん。「さまざまなイベントを通して人の輪が広がる場所になれば」とにぎわいを取り戻そうと奮闘中です。

西駅大通り(ゆずり葉大通り)会

会長 加治屋 孝一さん



都城讃歌

【がんばれ都城】

渡瀬 和幸さん



わたせ かずゆき
渡瀬 和幸

◎プロフィール

昭和54年、郡元町生まれ。
祝吉中学校出身
園田競馬場碓清次郎厩舎所属

私は現在、兵庫県の園田競馬場、姫路競馬場で騎手をしています。騎手を目指したきっかけは親の勧めで始めた乗馬です。競馬は乗馬と違い、バランスなどが大事なので毎日のトレーニングが欠かせません。レースの研究も一緒です。馬1頭1頭性格も違いますから。

私には昔からあだ名があり、尼（尼崎）のペリエと呼ばれています。ペリエは海外で有名な騎手で、彼の騎乗フォームを取り入れようと努力しています。

近年競馬の売上は年々減少しており、兵庫県の騎手会も積極的にファンサービスを行っていますが、その一環として昨年8月から全国で初めて騎手のズボ

ンに企業広告を入れる取り組みを始めました。そんな中、宮崎県出身の騎手や調教師からこの収益を口蹄疫で苦しむ畜産農家の支援に充てられないかとの声が上がリ、「がんばろう宮崎」というメッセージを入れたズボンを作り広告を募集しました。その結果多くの企業にご賛同いただき、今回「綾競馬」にお招きいただいた折りに義援金をお渡しすることができました。都城に帰郷したのは5年振りでしたが、親、親戚、牧場の方とも久々に話をする機会が持て非常にうれしく、懐かしかったです。私も年を取った証拠ですね。時間が取ればまた帰郷したいです。

近年競馬の売上は年々減少しており、兵庫県の騎手会も積極的にファンサービスを行っていますが、その一環として昨年8月から全国で初めて騎手のズボ

学校へ行こう

笛水小中学校

高崎町笛水948番地1 ☎62-4634



◎学校のシンボル

「やりぬこう 礼をつくそう 笛水をほころう」

小学部棟に掲げられているこの看板は、「学校・家庭・地域が一体となって育てたい子ども像」として、昨年度設置したものです

協力することの大切さ

笛水小中学校児童生徒会

笛水小中学校は、自然豊かで、星空のきれいな高崎町にある、市内唯一の小中一貫校です。児童生徒数が32人と小さな学校ですが、とても活気あふれる学校です。

今年の児童生徒会は「One for all All for one 一人はみんなのために、みんなは一人のために」をスローガンに掲げみんなで協力しながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

まず「あいさつ運動」では、「いつでも、どこでも、誰にでも」あいさつができるように頑

張り、その手だてとして毎月アンケートを取って、結果をグラフにして改善できるように努めています。次にみんなのきずなをより深めるため週一回行われる「全校みんなで遊ぶ日」では、小中学生全員で遊ぶので、その日をみんなとても楽しみにしています。さらに、昨年からエコ活動にも取り組んでいます。ペットボトルのキャップを集めたリ「節電、節水」をして、物や資源を大切にすることを意識しながら生活しています。

これからも、先輩たちが築き上げてきた伝統を受け継ぎ、32人全員が協力し合い、より良い学校にしていくために頑張っていきます。